2021-2022
WEEKLY BULLETIN
第2510地区
Rotary
札幌東ロータリークラブ
4月7日(木) 第27号 第3008回 例会

本日のプログラム

社外役員について 酒井 純 会員

小さな豆屋の反逆 池田光司 会員

1948年創業の当社は今年で間もなく75年を迎えます。

この間当然のことではありますが、幾多の山・坂が有りました。大学を卒業後、東京の商社を経て、大阪の豆工場の2階でお豆を作る修行を終えて漸く父の経営する会社に入社しました。入社後当社が製造していたバターピーナッツが、中国での製造が開始され、父の時代に築いた生産設備(３億円)を廃棄したことから当社の物語は始まります。ペンキ屋さんとまで言われるほど仕事が無く職人は毎日ペンキ塗りに勤しんでいた(中国赤字)。ようやく立ち直った時、日本国内に流通革命が起き、北海道の地元企業としての優位性が無くなり赤字に転落(流通赤字)。そこで生き延びる手法としてOEM(相手方ブランド)が主力の経営に切り替え再び復活を遂げる。ところがある日いつもの様に工場を巡回中、働く豆職人が実は「子供達に池田のお豆を見たことがない、本当にお豆を作っているの」と言われたそうです。経営者として価値があったOEM事業は、働く社員にとっては真逆であったことを気づかされ、即座にOEM事業からの撤退を決めた(訣別赤字)売上が三度、半分位に迄落ち込みました。そして創業の父が他界して数十年が経過していました。

商いをやめよと言っているのかと自問自答の日々が続きます。然し私は、ある体験を思い起こしました。それはバタピー事業撤退の原因となり、「敵地に乗り込む」心境で訪れた中国の地で孔子の言葉「鄙事多能」に出会う。それは私に勇気を与えてくれました。能力は身近の出来事で充分磨くことが出来る趣旨です。更に台湾では水利技術者八田与一さんに事業の在り方を学び、ロータリーのご縁でスイスに行った時アインシュタインが趣味のヴァイオリンを演奏しながら研究資金を稼ぐ姿に感銘。又「スイスの傭兵」の歴史にも触れた。韓国の世界大会では脱北者の生きざまに触れる機会を得た。フランスではパルマンティエが七年戦争でプロイセン軍の捕虜となった時、牢獄生活の中でジャガイモに価値を見出し、これでフランスの危機を救おうと決意した逆転の発想に驚愕した経験がある。数え上げればきりがないほど自分だけが様々な出来事(困難・失敗)に出くわしている訳ではないのだと思うと俄然気持ちが奮い立ち、未来へのエネルギーが湧いてくる。

1980年代私は青年会議所のアメリカプログラムに参画したおり偶然にもNYのアルバート・エリス研究所で「エリスのABC理論」を学び、生涯忘れ得ぬ体験をした。私自身が持つ所謂「偏見」で天国か地獄かと言われるほど大きく分かれる理論を学んだ。又北方都市市長モントリオール会議に参画し、生理学者でストレス学説の創設者ハンス・セリエ博士(カナダストレス研究所)の「ストレスは人生のスパイス」と言う名言に出会う。

私はジェリーミンチントン(作家)の「ミスから学ぶことを心がけよう。ミスを犯さない人がいるとすればそれは何もしないことと同じだ」と言う言葉が好きだ。私は失敗の連続に出会ってきた。でも失敗とは負けを失うと解釈できないだろうかといつも思う。そして出来事(失敗・困難)に直面する度に先生がやって来たと考える。今度は何を学び取れるかと自問自答する。又私は赤字になった時、眠れなくなり、結果的に散歩が赤字を解消してくれた。歩くと疲れる眠れる。知らない世界を発見できる。世界が広がる。課題の克服は自分の足元にもあることを散歩から学ぶ体験をした。この様な体験や人々の生きる姿を学び多くの仲間が出来てきた。むろん直接話しをしたことはない人々ばかりであるが、私にとって勇気を戴く宝のような人々であり戦友でもある。現在、私は「人との出会い・読書に親しむ・旅を楽しむ」をモットーにラストスパートの人生を送っている。この度の出版によって多くの方々からお手紙を戴きました。感謝の意を表したいと思います。

SERVE TO CHANGE LIVES

■本日のロータリーソング
君が代、四つのテスト

2021～2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シェカール・メータ